

さくらやま便り

No.362号 2024年（令和6年）11月15日



楕円形の満月



ハッセイ

板東 洋三郎

「まん中の赤い気球をよく見ていてくださいね」こう言いながら機器を操作していた医師が手を止めて言った。「白内障ですね」

このところ、なんとなく目がかすむのを感じていた。多分視力が落ちたのだろうと思い、眼鏡を替える前に診てもらおうと、近くの総合病院の眼科を受診した日のことである。

多分四十代の男性医師は、白内障とその手術について詳しく説明し、私の質問にも丁寧に答えてくれた。治療は、目のレンズである水晶体が濁っているのをそれを取り除き、直径六ミリの「眼内レンズ」を設置するという。

「手術しますか」と医師が聞いた。初めて来た眼科での診断ではあったが、ためらわず「はい、お願いします」と私は答えた。彼は言わなかったが、加齢によるものだろうから放置しておいてよくなるはずもない。

白内障を放置することの危険を医師が話したとき私は、五十年以上も昔のことを思い出していた。当時の学生運動に挫折した私は、ブラジルに単身移住した。その流れで北米や中米にも住んだ。ブラジルやグアテマラで瞳孔が白くなっている人をよく見かけた。

彼らはその症状を「カタラッタ」(CATARATA)と呼んでいた。それは「滝」を意味するギリシャ語である。古代の人々は、白内障で視界が遮られる様子を「滝」と呼んだのだ。表現は美しいが、しかし、放置すると失明に至る恐ろしい病気なのである。

左右の目は片方ずつ、月を跨いで手術することになった。説明は受け、同意もしているが緊張はする。何と言っても「五感の長」といわれ、人体で最も繊細な部分である。私が生きているという証拠の一つもそこにある。手術は二度とも、入院して二日目の午後だった。車椅子で手術室に連れて行かれ、自力で体の向きを変え、手術台に座る。心臓手術を経験した身には随分簡単である。二十分ほどで手術は終わり、翌日午後には退院した。視野が明るく、良く見える。眼鏡を使う必要さえない。嬉しい驚きだった。

術後一か月ほどして目の状態も安定したので眼鏡を作ってもらい、運転免許の更新も終えた。それからしばらく経ったある日の夜、仕事から帰り、ゴミを出した帰りにふと空を見た。するとちょうど雲が途切れ、顔をのぞかせるような月が見えた。昨夜は中秋の名月だったが見逃した。今夜は満月だ。

ところが、驚いたことに私が見ているまん丸いはずの月は卵のような楕円形なのだ。こんな形の満月をかつて見たことがない。

「そうか、これが乱視か」確かに自分が乱視であることは知っていたし、眼鏡も乱視用である。しかし、どう言う訳か今まで裸眼でも、物が歪んだり二重に見えたことはなかった。これも加齢か、ひとり納得するよりなかった。

家に戻り眼鏡をかけてもう一度月を見た。しかし、私が見た月は裸眼で見たのとまったく同じの楕円形であった。

次の日、仕事の帰りに眼鏡店に行った。この眼鏡を注文したときに測定をしてくれた中年の男性が、いつものようにかしこまって用件を聞いてきた。「実は、好奇心で申し訳ないのですが、教えていただきたいことがあって来ました」と私が言うと、今まで見せたことのない笑顔で私に椅子を勧めると彼も座った。

私の目に起こった現象を熱心に説明してくれた後で彼が言ったのは、すべて目の錯覚だということであった。目が錯覚を起こすことは分かるが、乱視を矯正す

るための眼鏡が錯覚を起こすというのは、よく分からない。

測定士の説明にも釈然としないまま帰宅した私は、入院中、閑に任せてネットで調べていた人間の目に関する記事を読み直した。

生物学者のメントン博士の記事によると、人間の脳は、約百二十億個の細胞で構成され、百二十兆個の相互接続を形成している。その一部をなす光感受性網膜も一千万個以上の視細胞からなる。これらの細胞は、レンズが捉えた物体のデータを、複雑な電気信号に変換し、脳の特別な領域に送る。そこで視覚に変換される「見える」のだという。

いうまでもなく、これらの反応の一つ一つは時間を要する。メントン博士は、目の中で、毎秒数えきれないほどの頻度で起こる一千万個以上の細胞の反応に必要な時間を、スーパーコンピューター・クレイで計算するとすれば、最低でも百年は必要だという。

人間の目の複雑さと精密さを語るとき、よく引用されるのが「ダーウインのジレンマ」である。それは、「進化論」の基礎とされるダーウインの「種の起源」の中で「自然淘汰が目を生み出すという考えは、率直に告白するが、ありえない」と、彼自身が書いていることに由来する。

事実彼は、生涯この「板挟み」から抜け出すことができなかった。晩年彼は「その『目』は、今日に至るまで私に悪寒を催させる」と友人に書き送っている。

因みに、ダーウインも知っていたと思われるが、彼より二八〇年も前に生きた古代イスラエルの知者ソロモン王は「聞く耳と、見る目は、ともに主が造られたものである」（箴言二〇章一二節）と述べている。

昨夜は心待ちにしていた満月だった。眼鏡で見た月は楕円形なのだが、裸眼で見た月は、わずかに二重ではあったがまん丸だった。なんとなく安心した。



新入職員のご紹介

はじめまして。12月から勤務することとなりました池原雅彦（いけはらまさひこ）と申します。

沖縄県出身で、3人兄弟の次男です。現在はシャローム横浜デイサービスを担当しています。趣味は、身体を動かすこと・DIY・バイクに乗ることです。ほんの少しだけピアノを弾くことができます。みな様と一緒に体を動かすことが出来たらいいなと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

生活相談員から

主任 遠藤裕之

●行事予定

- 11月21日 エレベーター点検（15時から16時ごろ）
- 11月25日 ワックス清掃（食堂・エントランス・階段）
- 11月29日 インフルエンザ予防接種（10時から）
- 11月29日 入浴17時まで
- 11月30日 入浴・シャワーなし（貯湯槽清掃）
- 12月8日 体操教室（14時）
- 12月16日 ピアノコンサート（14時）
- 12月19日 ゆず湯
- 12月25日 クリスマスディナー

●インフルエンザ予防接種（11月29日）について

ご希望の方は20日（水）までに予診票と必要書類を事務所にお出しく下さい。接種について不明な点は、横浜市予防コールセンターにご相談ください。

電話 045・330・8561

9時～17時（土日祝日・年末年始を除く）

●貯湯槽清掃について

建築物衛生法と水道法に定められている清掃を、11月30日に行います。前日29日17時から30日は入浴で

きません。また居室の給湯も止まります。ご不便をお掛けしますが、ご協力をお願い致します。

●冬季加算について

気温が下がりお風呂などの光熱費（電気代やガス代など）が増える時期となりました。今年度も冬季加算2170円を5か月間請求させていただきます。ご負担がおかけしますが、よろしくお願い致します。

●新聞について

1階ラウンジにある新聞の持ち出しや書き込みは、なさらないようお願い致します。個人でお読みになりたい方は、個別配達も契約できますので事務所までお尋ね下さい。

●ご寄付について

当法人では、児童福祉及び高齢者福祉の一層の充実のために、個人、法人、団体の皆さまから寄付金の受付を行っております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が行っている保育、介護等の社会福祉事業サービスの向上のために使用いたします。

なお職員に対するお心づけはご遠慮ください。

